

⑫ 実用新案公報(Y2)

平5-10766

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告

平成5年(1993)3月16日

A 47 J 31/06

A

9282-4B

請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 考案の名称 コーヒー抽出器

⑯ 実 願 平1-117893

⑰ 公 開 平3-58230

⑱ 出 願 平1(1989)10月5日

⑲ 平3(1991)6月6日

⑳ 考 案 者 佐 戸 信 男 大阪府茨木市北春日丘1丁目21番21号

㉑ 出 願 人 ハ マ ヤ 株 式 有 限 公 司 大阪府大阪市中央区瓦屋町2丁目5番20号

㉒ 出 願 人 大日本印刷株式会社 東京都新宿区市谷加賀町1丁目1番1号

㉓ 代 理 人 弁 理 士 立 川 登 紀 雄

審 査 官 鈴 木 恵 理 子

㉔ 参 考 文 献 実 開 平2-130525(JP, U)

1

2

㉕ 実用新案登録請求の範囲

薄肉合成樹脂製の容器本体の下に、段部を介して、上下にフィルターが張設されこれらの間に所定量の挽きコーヒーを収納している前記容器本体よりも小径のコーヒー収納部が連設されたコーヒー抽出器において、前記容器本体の下半分の周面部に縦皺が設けられて該縦皺の上縁部に折目線が形成され、前記段部の環状面の外周側に放射状の横皺が設けられ該縦皺の下縁と横皺とが連続した形態をなし、該縦皺の周壁面をその上縁の折目線から容器本体の内側へ折り曲げてコーヒー収納部を該容器本体内部へ収納せしめてなるを特徴とするコーヒー抽出器。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は一人前の飲用に適したコーヒーが簡易に得られる使い捨てタイプのコーヒー抽出器に関するものである。

(従来の技術)

一人前の飲用に適したコーヒーが簡易に得られる使い捨てタイプのコーヒー抽出器としては、実開昭51-18780号公報が知られている。

(考案が解決しようとする問題点)

上記従来のコーヒーパックは、使用時の形態と包装時における形態とが同じであるため、1個ずつ個別に、あるいは数個をまとめて包装するい

れの包装形態においても、包装材料を多量に消費し、包装箱も大きくなるため、包装費や運送費のコストアップを招き、また、商品陳列、保管スペース等においても嵩張り著しく不都合である。

そこで、本考案では、包装時には、扁平状でコンパクトな形状に変形し、使用時には従来同様の形態となすことができるコーヒー抽出器を提供するものである。

(問題点を解決するための手段)

本考案は熱湯を注入するカップ状の容器本体と、該容器本体の下部に段部を介して連設された挽きコーヒーを収納する該容器本体よりも小径のコーヒー収納部を薄肉合成樹脂でもって形成されるものにおいて、該容器本体の下半分の周面部に縦皺を形成するとともに、前記段部の環状面の外周側に放射状の横皺を形成して該縦皺の上縁から該縦皺を設けた周面部を内側に折り曲げ可能となし、包装時に、この縦皺を有する周面部を容器本体の内側に折り曲げることにより、コーヒー収容部が該容器本体の上部周面部内に収容された状態で変形でき、また、コーヒーを抽出するときは、コーヒー収納部を前記容器本体の下に押し出し復元できるようになったものである。

上記した縦皺及び横皺のピッチは特に限定を要するものではないが2～6mm程度が適当であり、また、縦皺と連続する横皺は、両者の谷部が連続

3

4

するように成形しても、あるいは、縦皺の谷部に横皺の山部が位置するように成形してもいずれでもよいが、縦皺の谷部に横皺の山部が位置するように成形しておけば、縦皺の折り曲げ時の折り曲げがより容易となるので好ましい。コーヒー収納部を容器本体1内へ押し込んだり、押し出すことのできる柔軟性を有する本考案のコーヒー抽出器を形成する肉厚合成樹脂としては、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリアミド等の汎用の熱可塑性合成樹脂が適用できるが、加工性等から、ポリプロピレン、ポリエチレン等のポリオレフィン系合成樹脂が好ましく、また、その肉厚は0.3~0.8mm程度が良好である。尚容器本体は円筒形状に限定されるものではなく、例えば角部をゆるい弧曲とした六角形、八角形等の多角形状としてもよい。

#### (作用)

縦皺及び横皺は、該縦皺及び横皺を形成した容器本体下部の外周部及び段部の外周部の円周長さの伸縮を可能にし、縦皺部分に容器本体の内側への折り込み外力が加えられると、その円周長が収縮して折り込み時に歪を吸収する作用を奏し、それによつて無理なくスムーズにコーヒー収納部を容器本体1内へ押し込ませることができる。また、容器本体1内に位置せしめたコーヒー収納部に押し下げ外力を加えると、同様に縦皺部及び横皺部が伸縮してコーヒー収納部をスムーズに下方に移動させることができ、形崩れを起こすことなくコーヒー液抽出時に必要な形態に復元させる作用を奏する。

#### (実施例)

以下本考案の実施例を示している図面について説明すると、薄肉なポリプロピレン樹脂製のカップ状の容器本体1の下部に、水平な環状の段部2を介して、所定量の挽きコーヒーCが収納されている容器本体1よりも小径のコーヒー収納部3が連設され、該コーヒー収納部3の上面及び開口3Aを備えた底面にそれぞれフィルター4、5が配設されてなるコーヒー抽出器6において、前記容器本体1の下半分の周面部に縦皺7を形成して該縦皺7の部分を上縁部8から内側に折り曲げ

可能となし、更に、前記段部2の環状面の外周側に、該縦皺7の谷部に山部が位置するようにして横皺9を形成し、該縦皺7の存在する周面部を容器本体1の内側に折り曲げることにより、第3図に示しているように、コーヒー収納部3が容器本体1の内側に変位収納できるようになしたものである。

#### (考案の効果)

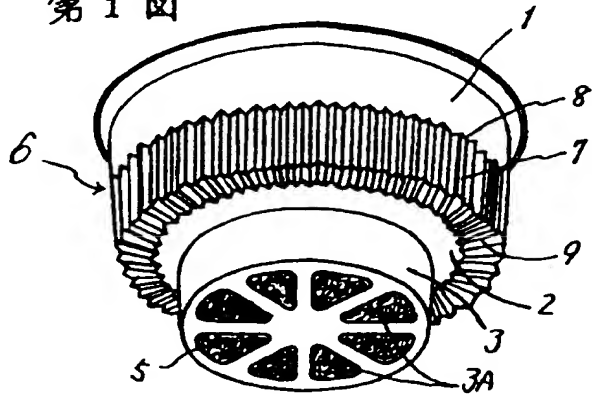
このように本考案は、容器本体1の下半分の周面部に縦皺7を形成すると共に該容器本体1とコーヒー収納部3との間に位置する段部2の環状面の外周側に、該縦皺7と連続する横皺9が設けられてなるものであるから、該縦皺7の部分に容器本体1の内側へ折り曲げ外力を加えると、該縦皺及び該横皺9の伸縮作用により該縦皺7部及び横皺9部が容器本体1の内側へ折り曲げられ、コーヒー収納部3は第3図に示す如く容器本体1の内側へ収納されてコーヒー抽出器の全体の高さ寸法が3分の1程度高低い偏平形状のコンパクトになる。従つて、この状態(第3図)で、1個ずつ個別に、又は数個をまとめて包装するいずれの包装形態においても、包装が従来より著しく小さくなり、包装費や運送費が安価となり且つ運搬や保管にスペースをとらず頻る好都合となる。そして、使用に際しては、コーヒー収納部3を下方へ押圧すると、縦皺及び横皺の伸縮作用によつて無理なくスムーズにコーヒー収納部3が容器本体1の下に押し出されるので、コーヒーカップ上に載置してコーヒー液の抽出作業を行うことが可能となる。

#### 図面の簡単な説明

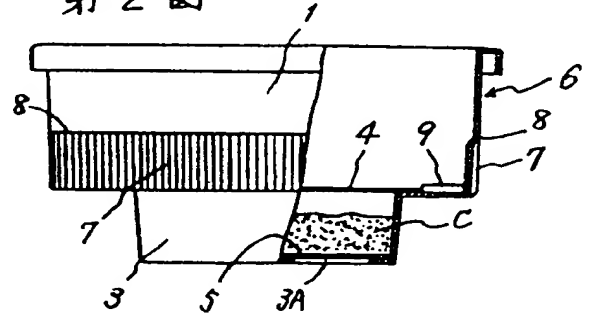
図面は本考案の一実施例を示したものであつて、第1図はコーヒー収納部が容器本体の下に突出している状態における斜視図、第2図は同一部断面正面図、第3図はコーヒー収納部を容器本体1内へ押し込んだ状態における一部断面正面図である。

1……容器本体、2……段部、3……コーヒー収納部、4、5……フィルター、6……コーヒー抽出器、7……縦皺、8……縦皺の上縁部、9……横皺。

第 1 図



第 2 図



第 3 図

